

浦益紀行

明治十一年八月廿八日午前九時四十分黒田開拓長
官金剛艦ニ函館港ニ上ル小野寺開拓一等屬隨行シ
川村海軍御花房外務大書記官等ト同ク露國「ウラジ
ヲストツク」ヘ向ケ十時抜錨午後四時福山沖ノ小島
ヲ經テ方位ヲ西北ニ取ル域日午前十一時ヨリ西風
降雨晚ニ至テ歇マス
廿九日午後五時二十分方位ヲ北西微西ニ轉ス四時
北四分一ニ當リ初テ一山ヲ認ム
三十日午前五時方位ヲ北西微北ニ轉シ七時東北ニ
當リ「アスコル」止島及ヒ近傍ノ陸地ヲ認ム八時方位
ヲ北微西ニ變シ十一時三十分「ウラジオストツク」ニ
入ル艦上樂隊奏曲シ碇泊ノ露國軍艦「サートツ」ニ

ク号モ亦奏樂ス正午十二時十分投錨祝砲二十一發
ス「フサ」ツニツク号曰教應砲セリ時ニ鈴木開拓少
書記官屬官ヲ率テ本艦ニ抵ル瀬原貿易事務官大前
二等書記生松本二等書記見習モ亦来リ共ニ着港ヲ
祝ス

先是北海道物産ヲ本港ニ輸送シ販賣ノ景況ヲ視
察シ将来貿易ノ方法ヲ設ルカ爲メ鈴木開拓少書
記官及村尾開拓五等屬大槻開拓七等屬御用係長
野桂次郎ヲ派ス八月廿一日村尾大槻及函館商人
渡邊熊四郎等八人函館九ニ搭シ午前六時函館港
ヲ發シ廿二日午前十時四十分小樽港ニ達ス鈴木
少書記官長野桂次郎既ニ日港ニ在リ貨物ヲ裝載
シ函館税関派出官吏ノ検査ヲ經テ廿四日午前八時

三十分鈴木少書記官以下四人函館商人八名及小
樽ノ商大竹作右衛門ト共ニ函館九ヲ以テ發航ス
九時忌路湾矯龍丸函館ヨリ来ルニ遭フ午後一時
二十分神威岬ヨリ方位ヲ西ニ轉ス以テ夜風雨十二
時ニ至リ西風雨ヲ捲キ激浪甲板ヲ漲リ船大ニ動
搖ス曉ニ及テ稍収ル廿五日正午本船ノ位置北緯
四拾三度零分四十九秒東經百三拾七度十二分三
十秒ニ在リ寒暖計七拾五度終日山影ヲ見ス廿六
日午前五時遠山ヲ北西ニ見ル蓋シ滿州地方相距
ル四五十海里午後漸ク近ク二三十海里八時十五
分天色黯黒ニシテ針路ヲ辨セス汽力ヲ緩テ曉ヲ
俟ツ廿七日午前五時西方ニ一山ヲ見ル正午ニ至
リ西北皆山午後一時燈臺ヲ設ケタル一小島ヲ認

ノ浦塩海峡ナルヲ知ル端舟ヲ發シ長野桂次郎大
倉幸三郎函館方九等ヲ遣リ燈臺吏ニ就キ水雷ノ有
無ヲ問フ該島近傍ハ凡二十日前既ニ排除セリ而
シテ港内ハ我管知スル所ニアラスト云フ長野等
港内ノ形況ヲ問ヒ畧圖ヲ作テ歸ル本船ヲ港内ニ
向テ且ツ問ヒ且進ム會ニ露國海軍士官ノ本船ニ
來ルニ逢フ復タ水雷ナキヲ知ル次テ一士官來リ
衆組人員ト出帆ノ地及ヒ其時日等ヲ問フ彼既ニ
長官金剛艦ニテ不日本港ニ來ルヲ知ル依テ答ル
ニ函館解纜ハ定テ明日ニアルヘキヲ以テス又泊
所ノ便否ヲ示シテ去ル午後四時投錨ス瀬原松本
來船相共ニ上陸シテ貿易事務官ニ投ス電信ヲ函
館ニ發シ着港ヲ報ス初メ本船ノ投錨スルヤ税関

吏來テ艙庫ヲ鎖封シ看守ヲ置ク廿八日函館ヨリ
電報アリ本日午前十時長官金剛艦ニテ函館投錨
ノ旨ヲ報シ來ル米人「ドウペ」ノ居室一房及倉庫
二房ヲ借り物品貯藏所ニ充ツ大前ニ托シ入港届
積荷目録ヲ税関ニ致ス吏員來テ鎖封ヲ解ク廿九
日物品ヲ揚陸シ傍ヲ本港ノ商況ヲ探偵ス三十日
長官ノ到ルニ及テ其概畧ヲ具陳ス

午後一時五十分小野寺一等屬ヲ露國東邦沿海諸港
都督海軍少將「フエルツマン」ニ遣リ在東京露國代
理公使「バロン、ロゼン」ノ書翰ヲ致シ長官ノ來ルヲ告
ク黒岡海軍大尉「フエルツマン」ヲ訪ヒ本港ニ
時長官海軍御ト共ニ少將「エルツマン」ヲ訪ヒ本港ニ
來ルノ主意ヲ述フ北海道産物ヲ本港及近傍諸港ニ

輸送シ貿易ヲ永遠ニ擴充セント欲ス故ニ先ツ来テ
現況ヲ視察シ将来ノ方向ヲ画策シ以テ兩國人民ノ
公益ヲ謀ンテヲ希望ス今佩ル所ノ勲章ハ貴國皇帝
陛下ノ賜ヒニ係ル謹テ之ヲ佩奉シ貴國皇帝陛下及
露國人民ノ幸福安寧ヲ祝シ併テ兩國ノ懇親ヲ將
来ニ厚フセンテヲ敬望ス海軍卿モ亦其茲ニ来ルノ
事由ヲ述フ午後四時貿易事務官ニ投宿ス
三十一日午後六時少将エルヅマン參謀長十ウーモ
コヲ携ヒ来テ長官ニ貿易事務館ニ接シ昨日ノ尋訪
ヲ謝ス

此日鈴木少書記官少将エルヅマン及參謀長十ウ
ーモフヲ訪フ在ラス午後五時税関吏来テ物品ヲ
點檢ス

九月一日午後五時五十分長官及海軍卿少将エルヅ
マンノ招ニ應シ其邸ニ就ク金剛艦長伊東中佐花房
鈴木小野寺大前黒岡及服部海軍大尉等之ニ陪ス夫
人エムメリーナ、エーリエフナ其妹ルイザ、エーリエ
フナ等懇待シ水兵長ヘルドガウセン參謀長十ウー
モフアラゲレッツシ艦長シヤンツ等八名宴ニ侍ス樂隊
階下ニ奏曲ス宴罷ミ親棚ニ倚リ茶ヲ喫ス再ヒ日本
頌歌ヲ奏シ衆客手ヲ拍テ感賞ス八時五十分歡ヲ尽
シテ去ル

此日小野寺ヲ少将エルヅマン及參謀長十ウーモ
コニ遣リ北海道產物ヲ贈ル鈴木ハ独逸商アリニ
ルス及ケル子ルヲ訪ヒ物品販賣及ヒ貿易ノ景況
ヲ問フケル子ル明日来テ物品ヲ點見スルヲ約ス

佛人麵粉師メナリ来テ長官ニ謁ス小麦粉ヲ示シ
品評セシム報文ヲ呈スルヲ約ス先是小麦粉各種
ヲ日人ニ附シ麵粉ヲ試製セシム
二日露人ウエツテルホフ来リ少将エルヅマンノ言
ヲ致ス閣下若シニコリスキイノ村落及ヒ養蠶試験
所等ヲ見ルヲ欲セハ汽船ヲ發シテ送迎スヘシト暫
クシテ小野寺ヲ遣リ答テ曰駐劄期短シ遠遊ニ暇ナ
シ敢テ厚意ヲ謝ス警察長セシケンスキ来リ長官ニ
謁ス我産物見本ヲ歴觀シ曰ク本港ノ商人ヲ警察局
ニ招集シ品評セシメテ之ヲ報告スベシト即チ見本
各種ヲ送致ス午前十時長官海軍卿ト典ニ花房等ヲ
携ヒ水兵營及ヒ病院等ヲ觀ル午後二時府長ヒヨ
ドロフ来テ長官ニ謁ス

次日鈴木警察長セシケンスキイヲ訪ヒ産物ヲ贈
リ其精粗ヲ評論センヲ托ス且這回北海道産物
ヲ齎來ル由縁ヲ述フ又港長ヲウロフ府長ヒヨ
ドロフ輜重長マコフスキイヲ訪ヒ并ニ産物ヲ
贈テ歸ル独逸商アリベルスケル子ル等来テ諸物
ヲ品評セリ

三日榎本特命全權公使先ニ露國舊都モスコワヨリ
瀨股ニ電報シ我國へ便船ノ有無ヲ問フ依テ本日公
使ニ電信シテ本港到着ノ日期ヲ尋ヌ午後五時長官
海軍卿ト金剛艦ニ在リ少将エルヅマンヲ招待ス其
夫人エムメリーナ及妹ルイサ水兵長ヘルトガウゼ
ニ參謀長ナウイモフ等モ亦来ル艦長房ヲ宴席トシ
甲板ノ後部ニ就キ兩國ノ旗章ヲ大砲ノ上ニ又装シ

別ニ各國ノ旗章ヲ繞ラシ、休憩所ヲ設ク「エルヅマン」
等艦内ヲ見、其壯麗ヲ賞ス。日時火戲ヲ演ス、暫クシテ
宴ニ就ク。花房、伊東、黒岡、服部、小野寺之ニ陪ス。樂隊曲
ヲ奏ス。尋テ休憩所ニ移リ、北海道魚肉罐詰及麵麩等
ヲ調味ス。皆其精良ヲ賞ス。鮑樓ニ茶ヲ喫シ、烟火ヲ見
ル。懸燈數百流、光ト相映シ、煌々昼ノ如シ。十時歎ヲ尽
シテ、歸ル。次日、露國士官等地雷ヲ前灣ニ炸裂シ、我カ
觀ニ供ス。先是、札幌ニ電信シ、明四日正午、長官及海軍
卿小樽一向ヶ解鏡ノ旨ヲ報ス。又小野寺ヲ水兵長一
リトガウゼン及其屬官某並軍医副監ヲ工小樽ニ遣
リ、札幌ノ產物ヲ贈リ、昨日ノ懇待ヲ謝シ、併セテ其品
評ヲ托ス。且水兵及ヒ患者ニ、鹽肉、麥粉等ヲ與フ。鈴木
ハ、常備長コズロフスキ、トヲ訪フ。在ラス。產物ヲ贈テ

歸ル

四日午前十時、長官少將「エルヅマン」ヲ訪ヒ、別ヲ告ケ
十一時、金剛艦ニ上ル。鈴木等之ヲ送ル。正午十二時、後
錨函館小樽ノ商人九名、艦長ニ請ヒ、搭乗歸國ス。函館
丸ハ、猶本港ニ碇泊シ、鈴木少書記官及小野寺村尾大
槻、長野等ヲ留メ、物產販賣ノ事ヲ調理セシム。
次日午後、常備長來テ、物品ヲ點見シ、明日再ヒ來ル
ヲ約シテ去ル。
五日、榎本公使セレンギンスクヨリ、長官ニ通信シ、曰
ク、予兼行シテ、本月廿五日乃至廿七日、其港ニ達スベ
シ。閣下歸朝ノ期ヲ「ストレー」クンスクニ回報セヨ。鈴木
水之ニ答ヒ、曰、黒田長官、昨日本港ヲ獲セリ。函館丸猶
滯泊ス。閣下ハ、該船ニテ歸朝スルヲ得ヘシ。又之ヲ札幌

幌ニ長官ニ移報ス「ゴズロフスキイ来リ木材ヲ見ル
明日又属吏ヲ率ヒ来テ細見スルヲ約ス
六日警察長セシキンスキイノ教ニ頼テリンホルム
商會代理ア、ワルドーマン来ル佛商フアール亦至
ル并ニ物産ヲ品評シテ吉ル管繕長コズロフスキイ
其属吏「ゴ」ヲ携来リ木材ニ就キ其意見ヲ述ブ独逸
商ケル子ルアリベルス、へ見本ノ鑄造等ヲ贈ル
七月管繕吏「レ」来ル木材ノ見本ヲ贈ルヲ約ス鈴木
長野ト府長「ヨ」ドロフヲ訪ヒ牛及車架ヲ購フヲ
托ス

此日露帝ノ即位日ナルヲ以テ各官衙及商賈皆簪
章ヲ掲テ祝ス公園ニ濟貧會アリ公園ハ鎮將エ
ルヅマンノ邸前ニ在リ南ニ斜傾シ海汀ニ枕ク東西

ニ門アリ哨兵之ヲ守リ園入ヲ許サズ門側紙牌ヲ
售ル一枚貳拾コベキ兒童及兵卒ハヲ課シ遊客
ノ引憑ニ供ス草菜地ニ敷キ小徑縈廻綠樹ト艸花
トヲ以テ之ヲ粧點シ幽趣掬スベク亦邊境ノ名區
ナリ園ノ幅負概子四町歩許三個ノ小亭アリ各國
旗章ヲ掲テ親睦ヲ表シ兼テ招牌ニ代エ皆体總ノ
處ナリ茶菓及酒ヲ售ル價通常ヨリ崇キ殆ト五倍
其一最高ノ処ニ在ル者エルヅマン氏ノ細君エム
メリーナ及ヒ其妹ルイサノ設ル所ニ係ル二人亭
上ニ立チ客ヲ呼ヒ花毬ヲ強賣ス一抱價三ルーブ
ル亦釀金ヲ募集スル點手段ナリ別ニ麥酒ヲ鬻キ
賤者ノ需ヲ俟ツ者アリ園ノ中央千人會場ヲ開キ
卷纏セル紙牌ヲ鬻ク價ニ拾五コベキ人ヲシテ

其記号ヲ窺ヒ知ル能ハサラシク買テ之ヲ開ク多クハ空牌記号アルモノ僅ニ百分ノ一期限ニ至リ細君場ニ上リ手自ラ原簿ヲ照シ紙牌ノ記号ヲ呼ビ釀金ヲ分賦ス最上品ヲ以テ一番牌ニ附ス油画額穿衣鏡等ヨリ玩弄ノ小品ニ至リ各差アリ各品ハ有志者ノ寄附ニ係ル釀額ハ皆濟救ノ資ニ充ルト云フ樂人奏曲夜ニ入り大戲ヲ演ス老ヲ助ケ知ヲ提ヒ美ヲ誇リ醜ヲ掩フ園内喧嘩夜深シテ初テ散ス後数日左ノ告文ヲ見ル

廣告

一千八百七十八年八月廿六日露國今帝即位ノ祝日ヲトシ分員ヲ濟ヒ窮ヲ恤ムノ資ヲ釀集センカ爲ニ千人會ヲ開設ス其收入ト消費ノ計算ヲ掲載シ

テ公告スル如左

浦潮港濟貧社委員

寄附金

百ル一ブル

ゲ、カ、某

五ル一ブル

ドウ、ル、某

貳拾五ル一ブル

高賈セモノノフ

五拾ル一ブル

高賈ケル子ル

収入金

貳百四拾八ル一ブル三拾コペーキ

木戸錢

貳千四百七拾七ル一ブル三拾コペーキ

富 瀾

貳百六拾七ル一ブル三拾コペーキ

休總所ヲ賣タル茶ノ價

四百零七ル一ブル

円シヨコラード及シヤパンノ價

百六拾三ル一ブル

日菓者ノ價

貳拾三ルーブル貳拾コペーキ

水夫ノ飲食セシ分

合計三千七百六拾六ルーブル拾三コペーキ

消費金

有志輩ノ寄附シタル物品ノ
外商賈ヨリ購求セル金貨

三百貳拾五ルーブル

商賈アリベルス

百五拾四ルーブル八拾五コペーキ

商賈千リウン

六拾コペーキ

全

百ルーブル

烟火

五拾ルーブル

奏樂隊

六拾壹ルーブル

役夫及傭僕

三拾六ルーブル貳拾五コペーキ

休憩所ノ建築及點燈

合計七百貳拾七ルーブル七拾コペーキ

純益収入金三千零三拾八ルーブル六拾四コペー
キニシテ其金員ノ内七百ルーブルハ本港女学校

ノ資金ニ充ツ殘餘二千三百三拾八ルーブルヲ本
港濟貧社ノ資本トナセリ

該社委員ハ濟貧會ノ出納計算成果ヲ一般ニ廣告
ス坎レ有志輩濟貧ノ事ヲ補助スルハ各自懐カス
ヘキノ義務タルヲ察識シ金財及ヒ物品ヲ寄附ス
ルノ厚情ヲ感謝スルノ真意ヲ陳述センカ爲ナリ

濟貧社長工エルヅマン

八日木材柱及瓦煉化石石炭^灰等ヲ管轄局ニ附シ實驗
ノ後精粗ノ報告ヲ依頼スアワルドーマン警察長ノ
命ヲ帶ヒ再来テ物産ヲ品評ス

九日鈴木參謀長ナウイモフヲ訪ヒ吹風ノ便船及ヒ
路引等ノ事ヲ謀ル又独商ケル子ルヲ叩キニコリスキ
近傍ノ地圖ヲ借テ謄寫ス坎日小野寺及函館丸船

長森本弘兼管繕吏レゴト同夕屋舎ノ造構ヲ見ル
十日長野ヲ府長ヒヨードロフニ遣リコリスキイ
ノ日行ヲ謀ル大前ニ托シ警察局ヨリ路引ヲ請ヒ又
上船票ヲ會計局ニ得ル夜ヒヨードロフ来テ明日ノ
啓行ヲ約ス

十一日午前七時鈴木及小野寺村尾大槻長野旅装シ
汽船ボリリザ号ニ公園ノ東ニ上ル車アリ本日ノ開
船ヲ罷々十一時上陸水学病院等ヲ觀テ正午帰館ス
レキノイ及ラズドリリノイニ往復スル郵便汽船
二艘アリ行旅ト運輸ニ便ニス皆賃銀ヲ収メス水
曜日毎ニ必ス發スボリリザ号ハ本港ヨリシ吹風
号ハラズドリリノイヨリ来リ兩船レキノイニ會
シ船客貨物ヲ交換シテ各處ニ復歸ス

十二日午前八時鈴木一行五人汽船ボリリザ号ニ上
ル府長ヒヨードロフ亦至ル十時三十五分抜錨アモ
リル湾ヲ航シレキノイ島ニ達シ吹風号ニ移リ午後
二時十五分吹風河ニ入ル東岸ヒヨードロフノ鋸器
械アリ上陸之ヲ觀ル浪濶六馬力地面百デスマキ
ナゼン横四サキハ長サ六十サキ丘岡ニ傍テ家ニ
戸龍圃少許アリ雜木繁茂ス別ニ河ヲ隔テ牧草場四
十デスマキトナリト云フ午後七時ラズドリリノ
イニ上陸シ驛所ニ就キ馬車二輛ヲ賃シ八時三十五
分出發行一ニウエルスト許河アリ浮梁ヲ設ク十一
時バカラノフスキイニ達ス行程十六ウエルスト半又
馬車ニ乗シスイフスキイヲ過ク一川アリスベラ
ナト云フ曾テ滿人豪族スベラナ河畔ニ住セシヲ以

テ改名アリト翌午前四時ニコリスキイニ連ス行程
十五ウエルスト露僧ニコリスキイノ家ニ投ス僧ハ
ヒコードロフ氏ノ知人ナリ徹夜兼行氣體甚ク億ル
千八百六十一年ノ冬十一月元年露國欽差大臣ゼ子
ラトル、イゲナキエフ清國大臣恭親王ト高議シ吉
林省内古東海國即千島ウスリ蘇里河以東沿海ノ州郡ヲ
割キ露國ノ版圖ニ帰ス南ハ朝鮮ニ境スル恒満河
ヨリ東ハ日本海ニ浴ヒ西ハ烏蘇江ヲ界リ北ハ黒
龍江ヲ以テ露清二國ノ銜界トス而六十五年ニコ
リスキイノ曠原ヲ相シ殖民ノ地トス先ツ陸軍兵
員ヲ遣リ「スイフンキイ」ニ小隊ヲ駐メテ本營ト
シ各一小隊ヲカノノレバロフバウノフスキイラ
ズトーリノイニ分屯セシム七拾八年ニ至テ本營

ヲ「ニコリスキイ」ニ移シ各所ノ分屯ヲ罷メ現ニ古
堡中ニ駐屯スル者歩兵五ロート人員六百人山砲
六門兵員百五十人コサツク騎兵百二十アリ殊ニ
騎兵ハ「ストツンスキイ」及カノノレバロフ等ニ分
遣スト古堡ハ南北拾町余東西七八町許ノ方形ニ
シテ壁ノ高サ一丈二三尺壁上ニ高サ八九尺方貳
間許ナル望遠臺アリ百二三十歩毎ニ必ス之ヲ設
ケ壁ノ外面ニ横撃スルニ備フ四面濠ヲ統テ不廣
キ所十間許填塞纒ニ其跡ヲ存スルノニ濠外ニ坡
塚アリ稍高レ頂殘シテ全形ヲ見ル能ハスト屈氏以
テ外郭ト爲セシ者ニ似タリ何ノ代何氏ノ築キタ
ルヤ知ル能ワサレ氏石佛ヲ以テ之ヲ徵スルニ蓋
シ三四百年前ノ物タルベシ士官某云フ三百年前